
不細工規制法

明太子ハム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不細工規制法

【Nコード】

N9386G

【作者名】

明太子ハム

【あらすじ】

不細工規制法という法律が通った日本顔にはレベルがつけられ、不細工には人権すら危うい時代となった。そんな中、一人の不細工が立ち上がる

プロローグ

「・・・現在のフェイスレベルは4ですよね？」

空は雲ひとつない晴天で、外ではセミたちがうるさく鳴いている。今日は遠足だったのだろうか診察室の窓からは園児たちが2列に並んで

仲良く歩いてる姿が見れた。

そんな園児たちの笑顔とは裏腹に僕の表情は険しいものだった。頬に汗がつつたわってきた。

暑いわけではない。室内ではクーラーが効いていてむしろ寒さを感じるほどだ。

「はい。3年前の診察結果はレベル4でした」

僕はそう答えると窓越しに見える園児たちに目をむけた。

その行列の最後尾から少し離れたところにもう一つ園児たちの行列があった

別の組の園児たちである。恐らくあの組が最後尾であろう。

「そうですか。では、これからはレベル3ということになりますので」

そう言うと、僕にカードと覆面を差し出してきた。

僕はそれらを受け取り、覆面をつけた後、一礼して診察室を出た。

「今日からレベル3か・・・」

受け取ったカードをみながら僕はそうつぶやいた。
外に出ると園児たちの行列は診察所から遠く離れたほうまで行ってしまっていた。

やはりあの組が最後尾なんだなと思いながら僕は遠くにいる園児たちの行列を眺めていた。

前のほうの組の園児たちとは違い、

最後尾の組の園児たちは無邪気な笑顔を見せることはない。

当たり前だ。なんたって彼らの顔は僕と同じく覆面で隠されているのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9386g/>

不細工規制法

2010年12月5日01時18分発行